

関西外国語大学日本語教育実習について — 報告と問題点 —

鹿浦 佳子

要旨

平成 2 年度より関西外国語大学留学生別科（以後、関西外大留別）での日本語教育実習（以後実習）を行ってきた。平成 23 年度までは秋学期と春学期の年 2 回の実習を行ってきたが、平成 24 年度は、従来 2 月にも行っていた実習をやめ、秋学期のみ 2 班に分けて実習を行った。平成 24 年に中宮キャンパスのカリキュラムに実習演習が加わったが、23 年間続いた実習の存続にゆるぎはない。本報告書は関西外大留別での実習生の報告書と実習の問題点を報告する。実習生の就職支援のプログラムの一つでもある日本語 TA インターンシップに現在派遣されているインターン生からも実習に関する意見を聞いた。

【キーワード】 関西外国語大学、留学生別科、日本語教育実習生、実習報告、日本語 TA インターンシップ

1. はじめに

平成 23 年度の春学期の実習生の 5 名と平成 24 年度実習生 7 名、全部で 12 名からの報告書と一つの教案例を記載する。関西外大留別において、日本語教育養成課程が始まって 26 年、模擬授業でもなく実習演習でもなく 23 年間ずっと実習を実施してきた。日本語教育養成課程で教えた教員が留学生別科で学生達の実習担当教員となるが、日本語養成課程における実習の実施の難しさを紹介する。

2. 実習報告書

2.1 平成 23 年度春学期と平成 24 年度秋学期の実習生の担当教員、担当クラス

担当教員と実習の担当クラスは次の通りである。

	氏名	担当	担当ケ入
実習期間[2月7日(火)~2月27日(月)]			
1	柴原 実和	英保	SPJ2DEF
2	加納 美希	渡嘉敷	SPJ2ABC
3	古屋 志穂子	高屋敷	SPJ1CD
4	和田 梨沙	小村	SPJ1AB
5	藤原 理沙	宮内	SPJ3ABC
実習期間[9月18日(火)~10月9日(火)]			
1	藤岡 妙	本橋	SPJ1DEF
2	板東 瑞季	渡嘉敷	SPJ2ABC
3	横澤 加純	大川	SPJ1ABC
4	齊藤 亮太	内藤	SPJ2DE
実習期間[11月5日(月)~11月26日(月)]			
5	大西 はんな	渡嘉敷	SPJ2ABC
6	川端 ゆりか	内藤	SPJ2DE
7	中村 絵	大川	SPJ1ABC

実習期間:土、日、祝日を除く15日間

2.2 平成23年度春学期と平成24年度の実習生の実習報告

①は「実習で学んだこと、得たこと、これからの課題」

②は「実習の感想、意見、後輩へのアドバイスなど」

である。

柴原 実和

①「教えること」の難しさと楽しさの両方を学ぶことができました。普段何気なく使っている日本語を、意味や活用、品詞や使用される場面などさまざまな角度から分析をして授業案を練り、どんな教材を使ってどのように導入をし、練習問題を経て実際に使ってみることでどんなコミュニケーションを行わせるのか…ひとつの文法項目を、じっくり考えて授業の流れを組み立てるのはとても難しかったです。特に、導入と場面設定で悩むことが多かったです。そのような時は、図書館で参考になる本を探したり、先生方の授業を見せていただいたりして導入の仕方や場面設定の仕方を学ばせていただきました。レアリアをふんだんに使ったり、既習項目を復習として織り

交ぜたりと1時間の授業の中にたくさんの工夫を織り交ぜており、その授業スタイルに刺激を受けることができました。また、日常生活から「これ使えそうかな」「こんな場面でこの言い方は使えるな」などアンテナを高く張っておくことが大切であると教えて頂いたことも、授業を考える際にとても役に立ちました。日本語指導の中で楽しさを感じた場面は、授業の中で学習者が「わかった」と納得したり会話練習を楽しんで行ってくれたりする姿を見たときでした。そのような姿を目の当たりにすることで自信に繋がっただけでなく、「もっと分かりやすい指導法はないか」「もっと効果的な場面設定はできないか」など向上心をもつこともできました。やはり、学習者の新鮮で素直な反応を見て一つ一つの授業の反省、改善を繰り返すことにより授業の質を高め、学習を深めることができるのだと思いました。実習で学んだことを、これからの自らの授業に生かしていきたいと思います。

実習が始まってからすぐは、文法項目を教えて練習問題を行い、場面設定をして文法を身に付けさせることを目標にして授業案を組み立てていましたが、日に日に学習者にとって何が分かりづらいのか、どこでつまづくのかを予測したり調べたりしながら案を練ることの大切さに気付くことができました。その時にとても参考になったのが、学習者の宿題添削でした。学習者が実際に書いた文章を見て、特に間違いが多いのはどんなところなのか、間違いの原因は何か、調べることができました。自動詞、他動詞の間違い、助詞の使い分けの間違いがやはり多く、母語の干渉が大きな理由であることが多かったです。その結果を授業に反映させることで、正しい知識をよりインプットさせることができたと思います。学習者の立場になって授業を考えることをこれからも意識していきたいです。

これからの課題としては、導入と場面設定をいかに分かりやすいものにするかということです。言葉で説明することよりも、実際に使われる場面から意味を推測させることで、使用されるイメージや雰囲気をつまみやすいことを実習から学びました。だから、ターゲットとなる文法項目が使用される、シンプルで分かりやすい場面を見つけて授業に生かしていくことを目標にしていきたいと思います。

②授業を見せていただき、また、実際に授業を行うというとても貴重な経験をさせていただいたことで、日本語教員という仕事のやりがいを感じることができました。授業案を練ることやテストの準備、宿題の添削など、その仕事は多岐にわたりとても大変なものだと思いましたが、「日本語をもっと学びたい」とか「今日こんな日本語

を使ったら友達とコミュニケーションをとることができた」と笑顔で話す学習者を見るととてもやる気ができました。

日本語教育実習を行う方へのアドバイスとして、身の回りの日本語に目を向けることを挙げさせていただきます。学習者に生きた日本語を学んでもらうためには、実際に使う場면을授業に導入することが一番であると思います。だから、誰を相手に、どんな雰囲気やどんな場面で使われる表現なのか、どんな言い方でコミュニケーションをとるのかということや授業のなかで感じ取らせるために、日常会話やテレビ、映画、ネットや音楽などにおいて日本語での表現方法を学んでおくことが必要だと思いません。

加納 美希

⑬3週間の日本語教育実習中に、実際の日本語教育の現場を見学させていただいたことで、授業の流れや、学習者の誤用の訂正の仕方、教授法、また、指示の出し方など、細やかな点まで学ぶことができた。授業が単調な流れで進んでしまうと学習者の集中力がもたず、流れの悪い授業になってしまう。教師主導で学習者と話すのか、ペアワークで学習者同士話させるのか、もしくは、グループワークをさせるのか、アクティビティのスタイルひとつひとつにきちんと計画を練ることが、授業の流れと運営に大きく関わってくると実感した。また、ペアワークなど、教師の手から離れてしまうアクティビティでは、学習者のフィードバックの仕方も重要になってくる。学習者に言わせたいものは何か、考えられる学習者の誤用は何か、そして、どういう点に留意して教え、誤用訂正していくのか、多くの点に留意して授業を構想していく重要性について学ぶことができた。

実習が始まったばかりの頃は、学習者の誤用におそれていた。過去に習った文型でも多くの誤用が出てしまい、授業が思うように進まず、結果、時間通りに計画していたものが終わらなかった。時間配分の失敗と、学習者にきちんと指示を出せなかった点が大きな反省点だ。だが、それと同時に、誤用が出る機会の重要性にも気づけた。過去に習った文型などにおいて誤用が出ることは、それが学習者に定着していない証拠であり、誤用をした学習者のみならず、クラス全体における課題である場合が多い。学習者が誤用をした時や、表現に詰った時、その場でただ訂正するのではなく、それをクラス全体に提示し、もう一度復習する機会を設けることが大切であると学べた。学習者が、過去に習った文型においても、改めて理解できた、と思える機会を作り、

誤用を減らしていくことが重要である。

これからの課題としては、実際授業を行う時に、学習者の反応や質問などを想定できず、また学習者の誤用に瞬時に対応できない場合が多かったので、この3週間で学んだものを生かし、まい進していきたいと思う。

②実習中、指導教官の授業だけでなく、他の先生方の授業も見学させていただけるので、さまざまな教授法などが学べ、導入や文法説明、アクティビティをどのような流れやスタイルでしているのかを知ることができた。様々なレベルのクラスが見学できたので、レベルによつての教え方の違いや、誤用訂正の仕方の違いについて学ぶことができた。先生方によつて、「げんき」の用い方や、文法説明の仕方が違うので、様々な授業スタイルを見学させていただける機会があることはとても有意義なものであったと思う。学習者の誤用訂正がうまくできない自分にとって、先生方がどのように誤用を訂正しているのか見ることは、とても参考になった。また、アクティビティをする際に、過去に習った文型について復習し、学生に確認をしている様子を見て、学習者がアクティビティをする際に戸惑ったり、困惑したりしないよう引っ張っていくことの大切さがわかった。

また、宿題の添削や、Language Table で学習者から質問を受けることにより、学習者がどのような点でつまづきやすいのか、また、誤用をしやすいのかがよく理解でき、学習者の母語によつて、間違えやすい箇所などが違うことも発見できた。

実習をうける後輩へのアドバイスとしては、授業を見学する前に、自分が何に注目するのか決めておくということだ。意識する部分を前もって決めておくと、ただ授業を見学するよりも、深く、様々なことを発見できる。また自分の場合では、授業をする前とした後では、見学する際の意識も違った。最初の授業では、自分は復習や確認などをせず、すぐアクティビティを学習者にさせたので、うまく機能しないという失敗があった。その後、自分の反省点をふまえた上で先生方の授業を見ると、それまで見えてこなかった部分がよく見えた。どのように指示を出せば学習者にとってわかりやすくなるのか、どのように学習者にフィードバックしているのか、見ていたつもりでも見落としていた箇所に大きく気づくことができた。授業見学の前には、自分で見るべき点を決めておくこと、また、可能であるならば、教案を自分なりに作成してから見学すると、先生方と学習者の動きや反応によく気づけると思う。

古屋 志穂子

①この日本語教育実習を通して、初めて実際の日本語の教育現場に入ったということもあり、初めは授業を見学していても、どこに着目してよいのかわからず、ただ授業の流れを漠然と見ることしかできませんでした。徐々に具体的な授業の組み立て方、指示の出し方、場面の作り方、質問の仕方など、実際自分が授業をする立場になってものごとを考えることができるようになったと思います。そして実際、初めて留学生を相手にして授業を行い、改めて、授業作りの難しさを感じました。授業の前は、ああしよう、こうしようと考えていたことも、授業が始まると、学生の反応や緊張などに惑わされてしまったり、授業を進めることにばかり意識を集中してしまい、学生の質問にうまく対応できなかつたり、ところどころ自分自身が混乱してしまったりと、なかなか思い通りに授業を進めることはできませんでした。これからの自分への課題として、より指示や場面作りを明確にすること、学生の反応や理解度に柔軟に対応できるようになること、自分が用意したものをふんだんにより効果的に使えるようになることなどが挙げられます。また、中級以上になると、言語に関する知識もより必要になってくるので、勉強面もまだまだこれからだと感じました。これからのインターン留学や将来に向け、できるだけたくさん現場での経験を積み、一つ一つ問題点を改善し、自分に合った授業を徐々に作っていきたいと思います。

②この日本語実習を終え、たくさんの先生方の授業を見学させていただき、各先生方それぞれのティーチングスタイルがあり、私も自分に合ったものを徐々に見つけていきたいと思いました。この実習はたった3週間という短い期間ですが、実習生にとって、何もかもが初めてのものであり、すべてがとても新鮮で、毎日学ぶものがたくさんありました。実習が始まった頃と比べると、自分でもとても成長できたように思います。これから実習を迎える後輩の方々も、この実習はとても貴重な経験をさせていただくチャンスなので、より充実した実習生活を送れるよう、毎日何事にも誠意をもって、積極的に一生懸命取り組んでほしいと思います。私もまだまだ日本語教師への道のりは長いですが、一つずつ、きちんとこなし、次のステップへと繋げていきたいと思います。

和田 梨沙

①日本語教員コースの最終課題である教育実習を通して、日本語教員に必要なもの

は何か、自分に足りないものは何かを考えさせられた。

日本語のクラスを見学する事がまず初めてで、初日は期待と一つでも何かを得たいという意気込みで、担当のクラスを見学させていただいた。初めはただただ見ていて、これが日本語のクラスかという初めて見るものへの珍しさというか好奇心のような楽しい気持ちで終わってしまった。正直、どこをポイントにしてクラスを見ればいいのか分からなかった。クラスの流れや教具の使い方、どんな導入、アクティビティをしているのかを見ることばかりに重点を置いていたが、実際に自分が授業をしてみて、「指示の仕方」の難しさに気づき、授業見学で何を見なければならなかったのかが分かった。

何気ない活動と活動をつなぐ指示や合図がスムーズに伝わるかどうかで、クラスの流れが全く違ってくる。このことに気づいてからは、「的確な指示で学生を誘導する」にはどうしたらいいのかを考えるようになった。また、先生のアドバイスで見学するクラスの教案を簡単でいいので考えて行くようにした。実際に先生がされた授業内容と照らしあわせると、よりその授業の大切なポイントが見えてきた。

先生方の授業を見学していて、それぞれに独特な教え方や日本語に対する考え方をもっていると感じた。それは、今まで日本語コースの課程で習ってきたような〇〇教授法にはどれも当てはまらない、オリジナル教授法のように思えた。そして、私も自分らしい授業をしたいと思った。しかし、ある先生に言われたことが、「基礎があつてのオリジナル」なのだということだった。日本語に限らず、基礎を身につけずに独自性に走ってしまつては失敗する。ベースを作ってから自分らしい日本語教育をその上に組み立てていくことが成長していく順番なのだを教えていただいた。

短期間の教育実習で、特に何かができるようになったわけではない。しかし、自分の目指す日本語教員になるのにまずはこうしていこう、とスタートを切る機会になった。また、実際に授業をらせていただいたりと貴重な経験をさせていただき、先生方に感謝すると同時に、この経験を次に繋げていこう、絶対に日本語教員になろうと、心新たに決意することができた。

藤原 理沙

①実習を通して、今まで考えもつかなかったことや思っていたことと違うことなど様々な発見があった。また日本語を教える楽しさを再確認できたと同時に自分の未熟さも感じる事が出来た。授業をする時は、学習者に質問をした時、間違えられるこ

とが怖かったがその間違えにこそ教師としての役割を果たせるチャンスがあるということを知った。また学習者の発言に対しては、別の表現を使っての言い方を教えるなど復習の機会があるということを知った。学習者の誤りを一つ一つ、つぶしていくことで学習者の会話もスムーズになり、文法を習っただけではなく実際に使えるようになっていくのだととても勉強になった。また応用練習もその活動をするだけでなく目的ではなく、活動の意味、内容をしっかり理解した上で活動を行うことに意味があり、大事なのだと実習をしてみて初めて気がついた。また自動詞、他動詞の授業の際に英語で自動詞・他動詞と言っていたのだが、日本語で覚えている学習者がおり、英語の母語話者でも文法用語は英語でも分からない場合があることに気づいた。

実習を行い、自身の発言にもっと気をつけなければいけないと強く感じた。未習の語彙をふいに使用してしまい、学習者がその語彙にひっかかり、説明が頭に入っていない状況を多く作ってしまったと思う。またアクティビティでは机間巡視をする際に学習者から質問をされ、その際の質問を全体に共有せず、その学習者の周りだけで解決をしていたことが多々あった。学習者からの質問やこちらから示した単語や表現を全体に共有するか否かの判断をしっかりと考えなくてはならない。また自身の発言のコントロールや学習者の発言に対する反応といった点など課題が多くある。学習者の発言に対する反応は自分ではしっかり返していると思っていたがビデオで確認すると思っていたほど出来ていなかった。早く進めなければという焦りがあるのだと思う。またこちら側から発信することだけを考えるのではなく、学習者からどのような答え、反応が返ってくるかまでも想定し、それに対する返答までも考えておかなければならないと感じた。それをしていなかったため、私自身、予想外の反応にしっかり対応しきれなかった。

今回の実習では自分の弱点や課題を見つけることができ、また日本語教師になるために参考にさせていただける点も学べ、とても有意義な実習となった。

②実習では1人の先生の授業や授業外の様子などずっと見学できるので「げんき」の進め方や前回の項目との関連、また実際の日本語教師の様子など本当に学べる機会が多くとても勉強になった。また様々な先生方の授業も見学させていただいたので様々な教え方を見て知ることができ、とても興味深かった。特に先生方のエラーコレクションはとても参考になった。毎日授業に参加していたため、学習者と話す機会が多く、国によって違う発音の特徴や発音が難しい箇所など音声についても勉強するこ

とができた。

Language Table では自分の担当ではない学習者に教えることで各レベルの間違えやすい点なども観察することが出来た。また授業以外の宿題添削では各学習者の理解度や間違える可能性が高い項目も把握することが出来た。それと同時に、教師からのフィードバックの書き方、仕方についても実践することが出来た。教案作成は日本語教育法Ⅱで学んだ教案作成の仕方が本当に基礎になっていて、それに自分で色を付け足していくのだということが分かった。しかしその色を付け足していくことがとても難しかった。なかなか良いアイデアが浮かばなかったり、納得いくものが出来なかったのもっと日ごろから使える状況をメモするなどしておかないといけないと感じた。

先生方の授業の仕方、工夫には本当に驚きがいっぱいで学ぶこと、参考にさせていただけるところが数多くあった。これから様々な教授の授業を見学させていただける機会は絶対はないのでとても貴重な経験となった。この貴重な経験をこれから存分に使い、将来のために役立てていきたいと思う。

今はまだその日の文法項目のみを教案に近い形で進めていくことしかできていないが先生方のようにその日の文法項目も教えつつ、復習を入れ、学習者の間違いを訂正し、過去に学んだ文法や表現なども実際に使えるようにさせる授業を目指したい。後輩へのアドバイスについては、当たり前のことだが理解しながら授業を受けるようにすべきである。説明が分からない文法項目をメモし、調べてから先生に確認し、つまったところで問題を解消していったほうがよい。また日ごろから各文法項目を使う状況を考え、メモしておくこと教案作成にとっても役立つと思う。

藤岡 妙

①この実習でいろんな先生方の授業を見学させていただいて、多くのことを学びました。自分の授業との比較ができたので、自分の授業に足りない部分は何か考えることができました。先生によって授業の形式は異なりますが、どのクラスも先生が和やかな雰囲気を作っていて、留学生が楽しそうに授業を受けていたのが印象的でした。教え方に関しては、新出単語の確認でも様々なやり方があって参考になるものばかりでした。授業内の練習やゲームも先生方がそれぞれ工夫されていて、学習者に合った練習を考えることは本当に大切なことだと思いました。

先生方の授業を見学させていただくことで様々な発見がありました。しかしそれ以

上に、自分の授業実習からは多くのことを学ぶことができました。教案を考える時点から担当教諭の先生にいろいろアドバイスをいただきました。何を身に付けさせたいかではなく、何をやりたいかというのが先になってしまい、授業の内容が難しくなっていました。教案を考える時は、学習者に何を学んでほしくて、その為にはどんな練習をすれば効果があるか、ということが一番考えなくてはいけないと学びました。授業自体はスムーズにできたのですが、後からビデオで確認するとイメージと違う点が多々ありました。緊張していたせいか、学習者に対する反応があまりなく、学習者がちょっと機転を利かせて言った発言に対しても軽く受け流していました。説明の言い忘れがあったり時間配分が悪かったり、他の先生方のようにクラスの雰囲気も作れていなかったと思います。客観的に見てみるとイメージしていた授業とは違い、直すべき点がたくさんありました。反省から学んだことは、一つ一つ工夫をして良くしていかなければならないと思っています。

②実習をする上で、最低限の準備はやっておかなければならないと思います。見学させてもらう授業の文法項目は何か、その文法を使ってどんな文が作れるか、ということのを少しでも頭に入れておくだけで見る観点も変わってくると思います。また、先生が授業中に言ったことを全てメモするのは不可能なので、あらかじめどんな点に注意して見るのか決めておいて、その点をしっかりメモして授業実習に活かしたらいいと思います。私は見学させてもらった際、最初は何に重点を置いて見たらいいのかわからずとにかく全部メモしようとしていました。でもそれでは効率も悪くメモし損ねる所がたくさんあったので、一番参考にしたい点を注意して見るようにしました。私の場合は、関西外大では英語で文法説明をしているので、どんな表現を使ったらいいかとか、どんな練習をすればいいかということに重点を置いていました。このように見方を変えることで、1時間を有効に使うことができました。

日本語の教育実習は私にとって初めてのことばかりで、新たに学ぶ点がたくさんありました。実際に授業をさせてもらったり、先生から直接いろんなアドバイスをもらうことでまた新たな発見があり、理解が深まりました。

坂東 瑞季

①教育実習中、さまざまな生徒を見てきました。わからないことがあると授業中積極的に質問する学生、助詞が苦手な学生、物静かだけれどテストはよくできる学

生、わからないことをそのままにしておく学生。授業中にそれぞれの学習者にとって何が苦手なのかわかることもあれば、宿題の添削中によく間違える点を発見し、気づくこともありました。放課後、サポートが必要な学生とは一緒に勉強したり、悩み相談にのったりする中で、こういった個別のサポートの大切さを学びました。学習者にとっても教える側にとっても授業が1番大事だと思いますが、授業外で授業中にできない個別のサポート・対応も必要なのだなと感じました。授業内外問わず学習者1人1人の弱点や性格を理解し、教えていけたらいいなと思いました。

実習中、「簡潔にわかりやすく説明すること」の難しさを実感したので、これから何度も各文法項目のポイントを何度も復習し、理解して終わるのではなく、学習者にどうやってうまく説明できるかというところまで考えられるようになりたいです。知識をつけることももちろん大事ですが、実習中さまざまな先生方の個性あふれる授業を見学させていただいたので、いつか自分らしい授業ができるよう、授業中に使える各課のアクティビティーなども作っていきたいです。

②3週間の教育実習はとても充実していて貴重な経験をたくさんさせていただきました。授業中はもちろん、授業外でも学ぶチャンスが多くありました。授業では、生徒が先生にどんな質問をするのか、どんなことに疑問を持つのか、どんなポイントでつまづきやすいのかに注意して見学するように心がけて自分の為になりました。そして先生はどのように授業を展開し、指名し、訂正するのか、どんなアクティビティーをするのか、など事前に自分で見学する際の目標・目的を考えておき、授業に参加できました。

実習中、学習者に授業外で日本語の質問をされましたが、答えられても簡潔にわかりやすく説明することがなかなかできませんでした。実習までにこれまで学んだことの復習をすることに加え、さまざまな文法項目をどうやったらわかりやすく説明できるのかというところまで考え準備できていればよかったと思いました。

留学生別科での教育実習が決まると、夏休みに課題がでます。その課題で満足するのではなく、これまで日本語学概論、日本語学Ⅰ、Ⅱ、日本語教育法Ⅰ、Ⅱで学んだことをしっかり復習して実習に臨むといいと思います。

私は9月に実習があり、それが終わった後、検定試験やインターンに向けて勉強する時間がとれると思っていましたが、なかなかそうはいきませんでした。しっかり余裕を持てるよう、遅くとも夏休み前からは勉強を始めた方がいいと思います。

①実習の中で、自分で授業準備し実際に授業することを通して、効果的な練習やアクティビティを作ったりうまく授業を構成していったりする難しさを痛感した。どのようなコンテキストで導入し説明していったら学習者の理解が得られるかを考えるのには非常に時間がかかり、教案一枚書くのも数日がかかりであった。教師の発言に対し、どのような返答が返ってくるか、経験の少ない私には想像し難く時間配分等も決めづらかった。実際に授業することで学習者の学び方や、どのような方法がわかりやすく、また反対についてこれない方法は何なのかを学ぶことができた。また、授業の中で教師が考えるべきことがたくさんあることもわかった。時間のコントロールから、発話の促し方、発言の平等性（指名の仕方）、訂正の仕方、学習者の発言に対するコメント（褒め言葉等）、雰囲気作りなど、様々なことを考えて臨機応変に対応していかななくてはならない。日本語教育を勉強しているだけではわからなかった教師の視点を身につけることができた。

さらに、先生方の授業見学を通してさまざまな日本語教授の仕方を学ぶことができた。身体を使って実践的に楽しみながらやる授業があったり、学習内容を使っていつでも学習者が自由に発言できるような工夫をこらしてある授業があったり、それぞれ個性的な方法で日本語が教えられていた。授業準備が入念にされているのがよくわかり、その授業に学習者が集中して一生懸命取り組んでいるのがよく見受けられた。教師が用意するパワーポイントやテキストだけでなく、教師のコメント・行動にもユーモアがあり、学習者に笑いを与え意欲を掻き立てていた。授業の内容と少しそれた質問があっても返答に困ることがほとんどないくらい教師の知識は豊富で圧倒された。

実習期間に自分の知識不足をつくづく痛感したため、今まで以上の勉強をしていかななくてはならない。自分の授業に余裕をもって、学習者のどんな反応にも適切な返しができるようにするため、日本語・教育・文化・社会など日本語教師として得るべき、発信すべき知識を十分得ていきたい。実習を通して学んだ“教師の視点”を今後も意識して授業できるように練習し、教師として学習者に信頼してもらえるようにならなくてはならない。得られる限りの機会を得て、プロの教師から授業の方法・工夫を、外国人学習者からどのように日本語を学ぶのか、どんな説明をされたらわかりやすいのか等を学んでいきたい。

②日本語過程の授業で習ってきたことを、理解から体験へ繋げることができた。今まで受けてきた授業は非常に有益で、実習に必要な知識が本当にたくさん詰まっていた。後輩には、ひとつひとつの授業を大切に内容をよく理解した上で実習に臨んでほしいし、それ以上の深い知識を得て実習に来れば更に成長することができると思う。3週間は短いがとても有意義な時間で、強い刺激を受ける。先生方は忙しい中時間を割いて指導して下さる。先生への感謝の気持ちを忘れず、熱心に取り組むことが必要である。

言語の知識は尽きることがない。おそらくプロの教師も日々日本語の勉強を続けていることだと思う。私は、自分が普段使っている日本語でもうまく説明できないことが多く、外国人学習者に「本当に日本人ですか。」と笑われることもある。日本語教員を目指すなら日頃から日本語の使用に敏感になり、文法的知識から実際の使用のされ方までとことん研究し続けていかななくてはならない。実習をすることによって、次の目標が見えてきて日本語教師への道を歩きたいと自分の中ではっきりさせることができた。これからも積極的に勉学に励み経験を積んで、素晴らしい教師になりたい。

齋藤 亮太

①実際に授業を行えたのは一度だけであったが、その1コマの授業のために何倍もの時間をかけて準備をした。指導教官の授業を観察する中で、私のイメージに合う教授法、学生との接し方、教材の使い方や指示を出すタイミングなど自分に必要な要素を見極めることができた。また、授業計画案について指導教官と話し合う際には、教室活動がそれぞれ連動していて有意義であること、学習者の混乱を招かない内容であることなど常に学習者と教師の立場の両方を視野に捉えることの大切さを学んだ。何度も練習を繰り返し、修正点や変更点を見つけながら授業を作り上げていく感覚は苦しくもあり同時に心躍るものでもあった。

実際の授業では特に問題なく活動を進めることができたが、それでも授業を録画したビデオ映像を確認してみると小さなミスや取りこぼしなどがあった。それを謙虚に受け止め、修正し、以後の仕事に役立たせる前向きな思考の大切さも学ぶことができた。

放課後や授業時間以外の時間は、学生の宿題や課題の添削、指導教官との話し合いなどの活動をしていた。毎日宿題や課題に目を通してしていると、学生の癖や誤用箇所、苦手な文法事項や言い回しなどが学生ごとに違っていることがわかる。このことから

学習スピードは、学習者が共通レベルのクラスにいたとしても一律に保たれることのない、あくまでも個人的なものであるということを改めて意識させられた。またこうした事実を踏まえ、先生との話し合いから、学生の特徴や状態、習得スピードなどを情報交換・共有する場面に多々遭遇した。クラス単位や教師個人の考えだけでなく、全体としてのクラスマネージメントの重要性も垣間みることができた。全体で学習環境を整え、レベルアップしていこうとする強い意志を感じることができた。

②この教育実習は、普段体験できない日本語教育現場に触れることのできるとても貴重な3週間である。担当クラスや指導教官によって授業スタイル、雰囲気などは異なり、そのどれもが日本語教師を目指す我々にとっては学ぶべきことだと思われる。

実習授業だけでなく、多くの先生の授業を見学させていただく時間や、実習生主催のランゲージテーブルなどの要素も将来への成長やモチベーションアップに繋がるだろう。

先生や実際に授業を受けてくれる学生、また実習生の仲間への感謝や協力を忘れずに実習に臨むことを願う。

大西 はんな

①3週間の実習で、机上の学習だけでは学ぶことが出来ない事をたくさん学びました。中でも特に大切だと思ったのは、常に学習者の立場に立って考えるという事です。日本語母語話者である私達にとっては容易なことでも、学習者にとっては難しかったり、混乱してしまったりする事があります。だから、授業を作る時も、実際に授業をする時も、常に学習者の立場に立って考える必要があるなと感じました。導入文一つ作るにしても、ただ、導入したい文法が使われていればいいのではなく、学習者にとってよりわかりやすい場面設定や文を考える必要があるなと感じました。アクティビティーの作成においても、学習者が楽しんで行えて、且つ、その文法を使う練習がしっかりとできるように工夫しなければならないなと感じました。

他にも、誤用訂正の仕方や、指名の仕方、スライドを作る際の工夫など、模擬授業をしている時には正直そこまで気を配っていませんでしたが、現役の先生方の授業を見て、そういった細かい所にまで気を配る必要があるのだなと感じました。自分自身、最初の頃は、授業観察をしていても、どうやって導入しているのか、どのようなアクティビティーをしているのかなど、授業の内容ばかりに気を捉われていましたが、

指名の仕方や誤用訂正の仕方など、そういった所にまで目がいくようになりました。まだまだ課題はたくさんあるのですが実習で学んだ事や反省を生かしていきたいです。

②3週間という短い期間ではありましたが、私にとって本当に有意義なものでした。それまで、大学の授業で模擬授業などをして、授業をする練習をしてはいましたが、実際に日本語学習者に対して授業をするのは模擬授業とは全く違うのだなという事を改めて感じました。実際に授業をしてみるとやはり緊張もしますし、思うように進まない事もあります。今回の実習授業の中で、一番失敗したと思う事は時間配分です。「50分の間に教案通りに終わらせなくては」と思い、焦って早く進み過ぎてしまい、時間を余らせてしまいました。もちろん教案通りに終わらせるという事も大切ですが、時間ばかりを気にして、学習者がきちんと理解できているかの確認や、誤用の訂正が疎かになってしまっただけではいけないなと終わってから反省しました。

また、スライドやプリントにミスがあったり、文法等は間違っていないけれども状況が不自然だったりということもありました。何度も見直しをしても自分では気づかない事もあります。なので、実習授業の教案やプリントは余裕を持って作成し(学習項目が分かり次第、次週前から少しずつでも考えて置く)、自分自身で何度も確認をした後、指導教員や他の実習生にも確認してもらおうと極力ミスを防ぐ事が出来るし、自分では気づけない事にも気付けるので良いと思います。

川端 ゆりか

①実習では様々な先生方の授業を見ることができ、それぞれの授業スタイルを学ぶことができました。また、同じレベルでも学生によってクラスの雰囲気が違っており、それに合わせて教師も授業のやり方を少し変えていました。導入では **Target Expression** を使う意味、場面、状況、どんな相手にたいして、等たくさんの事を考えなければいけません。学生に身近な内容でかつ、どの国でも考えがほしい同じものでなければいけません。導入時の状況設定や、レアリア、絵カードの使うなど、分かりやすく教える為の工夫をたくさん学ぶことができました。また、限られた授業時間の中で、できるだけ多く学生から発話を引き出そうとする工夫やおもしろいトピックを用意してクラスを盛り上げる工夫も学ぶことができました。また、授業をしながら、学生がどこまでわかっているのか把握しておかなければいけません。この質問は

時間を与えて考えさせたらわかる問題なのか、それともヒントが必要なのか、その判断を瞬時にする教師の判断力の鋭さも感じました。学生の理解度を把握し、必要に応じて補足説明をするなど、臨機応変に対応することが今後の課題です。どうクラスをつくっていくかは、学生によっても変えていかなければいけません。学生一人ひとりの個性や姿勢がそのクラスの雰囲気を作っていきます。学生の状況を瞬時に掴み、そこを臨機応変に対応していくには、経験と洞察力が必要だと感じました。実習中に、自分が予想していなかった質問や回答が返ってきて戸惑うこともありました。10人いれば10通りの答えが返ってくることを頭において授業すべきだと思いました。たとえ同じレベルの同じ文法項目の授業をしても、学生に合わせて調節していかなければいけません。同じ授業は二度とないのです。そこが、教師の難しい点でもあり、おもしろい点でもあると感じました。また、学生が実際の状況で意味がわかって、正しくつかえるようにするには、どうしたら良いのか、どう教えたが一番伝わりやすいのか、その方法と伝える力を身につける事が今後の課題です。

②実習中はできるだけ多くの先生の授業を見学したり、チューターやランゲージテーブルなどで学生とたくさんコミュニケーションをとることが大切だと思いました。宿題の添削をしたり、学生の質問に答えたりするなかで、私が気づかなかったことに、学習者として、日本語を見る視点がとても大切です。私自身、学生と話をすることで、かれらがどんなことに疑問を感じたり、難しいと感じたり、面白いと感じたりするのかが見えてきました。また間違いやすいポイントや日本人特有の概念などもわかってきます。私達日本人にとっては当たり前だと思っていたことが、彼らにとってはそうではないことが多々あります。こういうことは実際に話してみて初めてわかりました。なので、たくさん学生と話して、彼らのことをよく知ることが大切です。また、自分が先生方の授業見学をして良いと思ったアイデアをどんどん吸収し、授業やランゲージテーブルで実際にやってみると良いと思います。始めはなかなかうまくいきませんが、先生方の見よう見まねで何度かやってみると、しだいにやり方がわかってきます。実習は多くのことを学べる貴重な機会なので積極的に吸収する姿勢が大切だと思います。

中村 絵

①3週間という短い期間でしたが、様々なことがあり、とても濃い三週間だったと思います。実際に外国人に日本語を教えることは初めてだったので、初めは何をす

ればいいか、どんなことをすればいいか分からず、ただひたすら授業を見て、イメージをして、それを体現することだけでした。実際に授業をしてみて、授業をする上でやはり様々なことに気を使わなければならないことが分かりました。これは英語、日本語関係なく教師としてはやらなければならないことだと思いますが、パワーポイントの字の大きさであったり、ルビの振り方であったり、状況作りであったりと、本当に様々な可能性を考えないといけないことを学びました。実際に教案を作ってそれに基づいてアクティビティを作りましたが、実際に授業をしてみていると指摘され、当たり前のことですら気を使って、学生が理解しやすいようにしなければならぬといけぬと思いました。また、毎日大川先生とその日の授業で気づいたことを話し合いましたが、やはり答えられないことや気づけていないことが多々あり、もっと周りを見て、物事を分析していかぬといけぬことに気づきました。

私自身経験しないと成長しないタイプなので、今回の実習ではまだまだ経験が足りないのは分かっていました。今回の実習で一回きりの授業でしたが、まだまだ3週間授業を見ても、全く学べていないように感じました。もっと実際に授業をして経験を積んでいかなければならぬと思いましたし、更に、本を読むにしても、他の先生の授業を見るにしても、もっと物事を分析できるようにしないといけぬと思いましたし、それが今後の課題だと思います。

②実習を通して私自身まだまだ改善しないとけぬことはたくさんあると思います。授業を実際にしてみても、まだ自分自身がひとつの授業で何をしたいのかも分かっていないので、もっと授業を考える際に、自分は学生に何を教えたいのか、という事を確固たるものにして自分の授業スタイルを確立していかぬといけぬと思いました。それが、今回の実習の反省であり、課題でもあり、後輩へのアドバイスだと思います。私自身、実習前に文法などの知識面を勉強したり、授業について深く考えたりしていなかったため、今回の実習で行った授業では授業をしてみて本当に反省ばかりでしたし学生もあまり理解できてなかったため本当に迷惑をかけたと思います。実習前に必ずやれるべきことはしっかりやっておくべきだと思いますし、また学生をリスペクトすることも大切だと思います。学生をリスペクトするにも、やはり自分自身がきちんとやるべき勉強をしておかないといけませんし、こういう授業がしたいということも常日頃から考えるべきだと思います。

2. 3 教案

どの学生も同じような教案であるので、参考までに一人の教案を紹介する。

9月26日 授業計画

横澤 加純

学習項目と学習目標

「Frequency Adverbs」を理解し、正しく使用出来るようになる。

教具

副詞を書いたカード(6枚)、問題を書いたカード又はパワーポイント、CD

時間	流れ	活動の詳細	板書など
0-5	Warm Up	T:おはようございます。 S4:おはようございます。 (前回の復習:「は」) T: 午後は何をしますか。S1 さん。 S1: 午後は日本語を勉強します。 T: いいですね。じゃあ、週末は何をしますか。S2 さん。 S2: 週末は京都へ行きます。 T: そうですね。いいですね。 S3 さん、昼ごはんは何を食べますか。 S3: 昼ごはんは、カレーを食べます。 T: いいですね。	
5-10	導入	T:みなさんはスポーツをしますか。 S4 さんは、スポーツをしますか。 S4:はい、します。 T:何のスポーツをしますか。 S4:サッカーをします。 T:そうですね。よくサッカーをしますか。 S4:はい、よく(サッカーを)します。 T:みなさん新聞を読みますか。 S5 さん、新聞を読みますか。 S5:いいえ、読みません。 T: “not at all”? S5: ぜんぜん読みません。	「よく」と書いたカードを黒板に貼る。 「ぜんぜん」と書いたカードを黒板に貼る。
10-20	文法説明	T: You can add a frequency adverb such as よく to describe how often you do something. How do you say everyday in Japanese? S: まいにち	「毎日」とかいた紙を貼る。 「たいてい」

20-30	練習 1	<p>T: そうですね。 Usually? S: たいてい T: そうですね。 Sometimes? S: ときどき T: いいですね。 I usually eat breakfast Can you say in Japanese? S6 さん。 S6: 私はたいてい朝ごはんを食べます。</p> <p>T: いいですね。 言いましょう。/ Please repeat. 「朝ごはんを食べます。」 S: 朝ごはんを食べます。 T: 「たいてい朝ごはんを食べます。」 S: たいてい朝ごはんを食べます。 T: 「ときどき朝ごはんを食べます。」 S: ときどき朝ごはんを食べます。</p> <p>T: We also learn two adverbs which describe how infrequent an activity or an event is; How do you say “not much/ not often” in Japanese? S: あまり? T: そうです。 And “not at all”? S: ぜんぜん T: そうですね。 These adverbs anticipate the negative at the end of the sentence. You need to conclude the sentence with ません。 I do not study very much. Please say in Japanese. S7 さん。 S7: 私はあまり勉強しません。 T: そうですね。 言いましょう。/ Please repeat. 「私はあまり勉強しません。」 S: 私はあまり勉強しません。 T: 「私はぜんぜん勉強しません。」 S: 私はぜんぜん勉強しません。</p> <p>T: S8 さんはお茶を飲みますか？</p>	<p>「ときどき」</p> <p>「たいてい」のカードを使って他の部分を黒板に書き出す。</p> <p>「あまり」のカード</p> <p>「ぜんぜん」のカード</p> <p>「あまり・全然」の横に「+～ません」と書き出す。</p> <p>パワーポイント又はカードで Question を表示する。</p>
-------	------	--	--

30-40	練習 2	<p>(黒板を指して副詞のどれかを入れて答えるように促す。)</p> <p>S8: はい、ときどき飲みます。</p> <p>T: そうですか。 テレビをみますか、S9 さん。</p> <p>S9: あまり見ません。</p> <p>T: S9 さん、S10 さんに聞いてください。</p> <p>“Do you read books?”</p> <p>S9: S10 さん、本を読みますか。</p> <p>S10: はい、よく読みます。</p> <p>T: S10 さん S11 さんに聞いてください。</p> <p>“Do you play tennis?”</p> <p>S10: S11 さん、テニスをしますか。</p> <p>S11: 全然テニスをしません。</p> <p>Practice [pair work]</p> <p>T: Please ask these questions each other and answer with frequency adverbs.</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. スポーツをしますか。 2. 図書館に行きますか。 3. 映画をみますか。 4. 日本の音楽を聞きますか。 5. 朝ごはんを食べますか。 6. たいてい何時ごろ寝ますか。 	<p>パワーポイント又はカードで質問を表示する。</p>
40-50	Dialogue	<p>時間をとったあと数組に発表してもらおう。理解しているかどうか確認する。</p> <p>〈リスニング〉</p> <p>一回通して聞かせる。</p> <p>そのあと、区切って流し内容の確認をする。</p> <p>T: メアリーさんは週末何をしますか。</p> <p>S: メアリーさんは (たいてい) うちで勉強をします。</p> <p>(「たいてい」が出て来なかったら “How often?” と聞く。)</p> <p>T: What else?</p> <p>S: (ときどき) 映画をみます。</p> <p>T: What did Takeshi invite her to do? / What did he say?</p> <p>S: 映画を見ませんか。</p> <p>T: いつ映画をみますか。</p>	<p>ダイアログ CD</p> <p>スクリプトを配る / 教科書を開く。</p>

		<p>S: 日曜日に見ます。</p> <p>もう一度一文ずつ CD を流し、学習者が復唱する。</p> <p>次回連絡等して終了。</p>	
--	--	---	--

3. 実習の問題点

3.1 関西外大留別での実習

関西外大留別の日本語プログラムは担任制であるため、実習生は実習期間中、ずっと留学生と同じクラスにいることになる。同じ学生を3週間観察出来るので、留学生の成長を日々観察できる。指導する教員は専任のみで、専任教員の数が常にある程度保たれている（現在は12名）からこそ、実習の実施が可能となる。関西外大は世界35カ国と地域からの留学生を受け入れており、実習生はクラスでは様々な国の留学生に接することができ、様々な言語の文法的間違い、発音の間違いに触れることができると同時に、教員による訂正方法、嬌声方法が習える。実習生が教えるクラスは、会話初級レベルが望ましい。中級、上級を教える場合、それ以前の語彙、文法の把握も前提となるので、準備が大変になる。まずは初級での文法の基本的な部分の教授技術の習得をし、他のレベルにつながる応用力をつけさせることが大切だと考える。

問題は、実習生の数が多くなる場合や、専任教員の担当する初級クラスが少ない場合である。実習生の数が多くなると、一人の教員のクラスに複数の実習生がいることになり、教員の負担が多くなり日本語教育の質的維持が難しくなる。初級クラスに実習生が収まらなくなると中級以上のクラスでの実習になるが、初めて実習を行う実習生にとっては、難しくなるかもしれない。また実習生を担当するのは初級クラスの専任教員で、中級、上級担当の教員は実習に携わらなくてもよくなり、教員間での不公平感が生じ、専任の担当の固定化は実習を行う場合には問題となる。教員が熱心であればあるほど、また、実習生数が増えるにつれて、実習生を担当する専任教員の負担が増える。23年の実習の歴史の中で、実習生の急増による教員の負担の増加、それによる日本語教育への質維持へのゆらぎから実習生を受け入れるのをやめようかという時期もあり、実習プログラムの継続の危機があったことは確かである。しかし、実習演習や、模擬授業のみでは実習生が実際に教壇に立つことは難しいため、専任教員全員で協力しあい、今まで実習プログラムを継続してきている。

3.2 教員側からみた実習のデメリット

担任制であるため、秋学期に一人の教員が2班とも実習生を受け持つと、15週の秋学期のうち半分に近い6週間、常に日本人学生が日本語クラスにいることになる。留学生の中には日本語教員のプロに習いに来たのに実習生のモニターにさせられるのかという気持ちになる者もいる。教員も常に見られているという圧迫感がある。昨年までは、春学期の2月から3週間の実習があり、4月からの2カ月半のインターン実習研修を含むと、最長で年19週間、実習生を指導する教員もいた。春学期の実習をやめた理由は、学部のカリキュラム変更のため1月の学部授業がなくなったこと、春学期における初級クラス的人数が秋学期に比べ少ないためであり、初級クラスの多い秋学期に実習を集中させることにした。

実習生を受け持つ専任教員は、毎日の実習生の指導として、教案作成のアドバイス、チェック、訂正の指示、添削の指示、反省会などの時間的負担が強いられる。実習の後の実習生へのフォローのみならず、実習時の練習不足や不十分な説明に対しての留学生へのフォローも忘れてはならない。教師にとってメリットとなるはずの実習生による添削、印刷の手伝いも、添削の間違いや、印刷の失敗や不備が生じると、助けにはならず却ってやり直しに時間を取られることになる。

教員やクラスに対するコメントを聞く *course evaluation* に、実習生に対する不満、不平を訴える留学生もいる。

3.3 教員側からみた実習のメリット

実習生と留学生は年齢が近いと、留学生はクラス外で気軽に実習生と会話したり、生活情報などを聞くことが出来、実習生に対して良い感情を抱き、それがクラスにいい雰囲気をもたらすことが多い。実習生によって異なり、中には却ってクラスが悪い雰囲気になることもある。もっとも、クラス外の留学生との交流は節度を保ち、公私のけじめをつけるようガイダンスでは注意している。実習生は学生であるが、教員と同じプロ意識を持つべきである。

ペアーワークのアクティビティーを取り入れているクラスの場合、奇数人数のクラスでは3人のグループが出来てしまう。ここに実習生が参加すればペアーワークが出来る。また、普段、クラスが偶数的人数であれば問題ないが、欠席者が出て奇数的人数になっても、実習生に参加してもらえるとペアーワークがスムーズに行える。

会話のスキットをクラスで提示したい場合、録音したものに頼らず、クラスの中で

実習生と会話して生のモデルスキットが行える。

敬語を導入する場合は自己紹介をして習った敬語を使用してもらったり、女・男の言葉を提示したい時もスキットの相手になってもらえる。関西出身の実習生には関西弁の発音のインフォーマントにもなってもらえる。聞き取り試験や練習用の会話の録音にも参加してもらえる。

上級クラスでは、ディスカッションに加わったり、スキットやプロジェクト発表の際のオーディエンスとして、コメントを言ってもらったりできる。

黒板を消したり、荷物が多い場合、教材などの教室までの運搬も手伝ってもらえる。宿題の添削、客観的なクイズ、テストの添削の手伝いもしてもらえる。

口頭試験を行う場合、試験問題を設定して実習生に質問してもらい、教員は、録音した口頭試験を後で聞き直して評価する必要もなく、試験と同時進行で評価、採点することが出来る。

クラス内に LD や学習についていけない留学生がいる場合、クラス外での学習支援のメンターをしてもらうことも可能である。

Language Table を実習生に企画運営してもらえる。これは work shop の開催を行い、留学生が興味を持つ関西弁、イディオム、オノマトペ等の講義演習を開いたり、留学生との会話の相手になってもらったり、学習支援などのための留学生との交流の機会を設けてもらう。これは実習生、留学生双方にもメリットがある。

3.4 インターン生による実習の感想

平成 24 年度に参加したインターン生に派遣先で直面している問題点や関西外大留別における実習プログラムの感想、評価を聞いて、次のような全体的によい評価を得た。TA が派遣されている提携大学の教員からも実習生、教員養成課程に対し大いに満足していると高い評価を得ている。外大を修了した実習生の活躍によってもこの TA プログラムは支えられていることを忘れてはいけない。

●教師がおらず、教案作成やテスト作成、コース運営などすべてを任されている状態。そのため、実習中には経験しなかった試験の採点などに苦労している。

●実際に学期中に行ったテストで、学生に「初級の学生に対してこの採点はきびしすぎる」と言われた。またオーラルテストやプレゼンテーションなど数値化しにくいパフォーマンスに対する採点も難しい。学期中にもっと担当教員に採点や評価についての話を具体的に聞いておくべきだったと反省。テスト作成に関しても同様に、もっ

と留意点を聞いておけば良かった。実習中は授業をどうすすめるか、ということで頭がいっぱいだったが、授業の外での仕事についてももっと考える必要があったと感じている。

●実習中は色々な先生方の授業を見学できたおかげで、様々な授業スタイルがあるということを強く感じ、自分のやり方で教えればいいという自信がついた。

●オリジナルの練習問題やアクティビティを作る機会がもっとあればと思った。今はオリジナルの教材やアクティビティを作る機会が多く、実際、実習中に研修生同士協力して作成したリスニング教材はとても役に立っている。他にも、例えば、**te-form**などの活用をわかりやすくまとめたシート、課ごとの練習問題プリントなど、授業で使えるオリジナル教材を作る、という活動がもっとできたらと思う。各レベルに合わせた学生に対する話し方、指示の出し方、プリントやパワーポイントを作る際の留意点など、さまざまな部分で実習中に教わったことが役立っている。

●クラスでうるさい学生がいて、クラスをまとめることが時々大変である。しかし、これは私自身の教え方の問題でもあると思う。また、学生と年齢が近いということもあって、少しなめられているのだと思う。威厳がもてるようにより良い授業を作っていきたい。

●実習中は、毎日の先生の授業見学の際に、学生の後ろに座ったり、時には学生に混じってエクササイズの手をした。教員の授業を、学生の視点から見る事が出来、学生にとって先生方の授業がどのように学生に働いているのかを毎日考えることが出来た。また、授業のレポートを毎日書いて先生に見てもらい、いろいろ質問をする時間ももらうことができ、疑問に思ったことはその日のうちに解決することができた。そのことが今ここで毎週授業を作る際に学生がどのように学びたいのか、を注意深く考えなければいけないということを、私に植え付けてくれた。

●実習中に実習生が **Language Table** の一つとして毎週行っていた **Japanese workshop** で作成した資料を現地の授業で活用できとても役に立っている。なにより、学生にとって何に興味があるのか、意外と知らないものを教えてあげようなどと、イベントを考える際に必要な考えを養うことができ、またそれを実践する機会が得られて良かった。

●指示の出し方、導入方法、特に訂正の方法の技術はとても役に立っている。

4. まとめ

関西外大留学生別科での日本語教育実習は、どこにでも通用する質の高い日本語教員育成を目指し、教員の熱意と努力で実習を行ってきた。実習生からの意見ではどれも満足度の高い評価を得ている。実習の時間的制約のため、実習本番では極度に緊張し、準備したことが発揮できなかつたため、実際に行う実習の前に部分的な実習の予行演習が出来るとよかつたというリクエストも多く聞かれた。これを受けて実際の実習の前に実習予行演習としてクラスの一部を使い、日本語教育の質維持を行うべく実習生に短い間の練習を数回させていくことにする。また、クラス内での指導も大切だがテストの作成、テストの評価の指導ももっと時間を費やしてほしいという要望に応えていく努力もしていく。

留学生のコンサルテーションにおけるアドバイス、指導方法などの留意点も必要になってくるだろう。

関西外大留別では、実践力のつく、質の高い「日本語教育実習」を提供し、将来日本語教員を目指す人材を日本語教育の世界に送り出すために、今後ともこの体制を維持できるよう願っている。

(shikaura@kansai-gaidai.ac.jp)